



こころ 愛と 4joe 前略

4月号

人事労務トピックス

◆雇用調整助成金最大100日+3ヶ月分まで

荒っぽく言えば、いくら売上がゼロになっても100日分と4～6月分の給与は政府が肩代わりしてくれる。正社員も非正規社員も含めて。不況を乗り切るに際し、頭の片隅に入れておいてください

◆労務相談ゼロ

震災の時もそうだったし、今回のコロナもそうだ。

このような状況になると労務相談がゼロ?!になる。今、従業員と共にゆくべき先を共有するときだ。

セミナー情報

人の問題の扱い方研修 TWI-JR

2020年4月23日(木)、27日(月)
13:00~18:00

一人の問題を扱うための4ステップー

- ☆ケーススタディにより実践的・現実的な手法を学ぶ
- ☆実際のケースを、4ステップを使用し解決へ
- ☆実習を数多くこなし、技術を体得する

強い会社の 見える化・見せる化 セミナー

2020年5月13日(水) 14:00~16:30

今こそやるべき?!見せる仕組みで
会社の基礎体力を上げる

- ☆人間の情報判断能力を味方に付ける
- ☆〇〇に働きかけると効率上がる
- ☆量が減っても生鮮性を上げる



コロナで光る！？フォージョウハーフ食堂。

弊所では、毎日、昼ごはんは自炊し、みんなで食べている。（自称：フォージョウハーフ食堂）定番メニューは、玄米にごま塩、味噌汁、おでん、納豆、だし巻き、しらす等。それに加え、スタッフのご家族やお客様が送ってくださる野菜や惣菜などが並ぶ。

最初、弊所スタッフ野波の食生活がひどいのと、思う存分、おかわりしたいという所長とスタッフ辻の食い意地が合致し、炊飯器を購入したのがきっかけだった。お昼に弊所にいらしたお客様には、一緒に食べていただき、お褒めの言葉をいただく。去年は、書籍にも紹介された。「[人が集まる会社 人が逃げ出す会社 \(講談社\)](#) 著者 [下田直人](#)」

このフォージョウハーフ食堂が、ここへきて光り出している。コロナ対策は、つまるところ、自らの免疫力を高めるしかない。コロナの影響で、おでんの具に大根が増えた。そして、玄米にごま塩、納豆。若手の井上くん、野波さんの味噌汁には、

大量のネギが入れられ、ご飯に梅干しを載せられる。本年施行のパワハラ防止法に抵触するかもしれないくらい、本人の意向は無視される。しかし、このメニュー、免疫力を高めるには、完璧に近いメニューなのだ。しかも、コロナ予防は、外出を避けることで、一石二鳥だ。

よく聞かれる。「毎日、大変でしょ?」。いや、それが逆で、すごく楽なのだ。だから、3年も続くのだ。お弁当よりあったかくて、外食するより、時間がずいぶんゆったりしている。準備も片付けもマニュアル化され、手間がかからない。

弊所を真似て、自社でも自炊を始めた会社も5、6つくらいはあるだろうか?

弊所では、社内で自炊をする支援をしたり、食堂の導入を通じて、**経営マインドを学ぶ「おでん食堂研修」**というのもあったりする。コロナは長期化しそうである。自社での自炊を検討される方は、お声掛けください。

📷「おでん食堂と研修の様子」



良かったらご覧ください☆



研修時の様子を綴って下さったブログへのQRコードです。

「ご自由にどうぞ」から「おひとつどうぞ」へ

昨年11月に東京の西にある国分寺に引っ越してきました。国分寺には、知る人ぞ知るカフェがあります。

その名は「クルミドコーヒー」

「ゆっくり、いそげ」というベストセラー本を執筆された影山知明さんが経営をされている会社です。このカフェでは、国産のくるみがテーブルの上に置かれており、自由に食べられるようになっています。国産のくるみ、実は相当高価なのです。外国産の3倍くらいの値段です。くるみの前には当初「ご自由にどうぞ」と書いたカードがあったそうです。カードのとおり、本当にご自由にたくさん食べたり、中には持って帰ってしまう人もいます。当然、商売ですから、たくさん食べられては採算が合わなくなってしまいます。かといって、「おひとり様一つまで」などとお客さんに制限もしたくない。そこは、指示されるのではなく、みんなが自発的に丁度いい塩梅を感じ取ってほしい。誰かに指示されなくても、人は自分の心に聞けば、どのくらいが丁度いいのかを知っています。その心に従っていったら、みんなが心地よい空間が作れます。それは、まさに、お客さんに良心の発露を求めるといことです。そんな空間づくりのために考えたのが、「ご自由にどうぞ」から「おひとつどうぞ」へ。

「おひとつどうぞ」なんて素敵な言葉の響きではないでしょうか？「一人一個まで」とお客さんを制限するわけでもなく、かといって、「何個でも自由にたべていいよ」というメッセージでもない。多くの方は、前向きに自発的に「くるみを一個」頂くでしょう。中には、「もう一個くらい」と二つ食べる方もいるでしょう。その人も

「客なんだから食べて当然」という意識ではなく、「おいしかったからもう一個だけ許してね」というような気持ちなのだと思います。それを見つけたお店の人も「美味しいでしょう。どうぞどうぞ、ひとつくらい余計に食べてくださいよ」という良心が発露されます。この関係では、優しさの循環が生まれ、お客さんとお店が協働して良い場を作る関係になっていきます。影山さんは、お客様に「健全な負債感」を与えるようなお店がお客とのいい関係なのではないかと言っています。人の中には、「お金を払うのだからいろいろ権利を主張して当たり前」という消費者的な自分と、「ああ、いいサービス受けたな。気持ちいいな。何かでお返しをしたいな（お返しが、また来るだったり、知人に紹介するだったり、店員さんに「美味しかった」ということであったり）」という受贈的な自分がいます。このような2種類の人がいるのではなく、一人の人の中に、どちらの自分もいて、そのシチュエーションによりどちらかの自分が引っ張り出されます。受贈的な自分が引っ張り出された時に感じる、「なんかでお返ししたいな」という思いが、「健全な負債感」です。そして、これが引っ張りだされた時は、本人にとってもお店にとっても心地よい空気感が生まれます。

新型コロナウイルスは、私たちに多くのことを試してくれます。みんなが消費者的な自分を出していけば、「ご自由にどうぞ」の精神で必要以上に買い占め、物が足りなくなります。反対に、受贈的な自分を出していけば、「おひとつどうぞ」の精神で譲り合いが生まれます。みんなが譲り合えば、このテクノロジーが発達した21世紀で物が足りなくなるなどないはずなのです。

「4jhの不況に向けての方針発表」

先々週月曜の朝礼、不況で売上が激減した場合の方針をスタッフ皆に発表した。

- ①売上がゼロになっても助成金と蓄えをやりくりし、雇用は守ります。（スタッフ一少し驚き）
- ②無駄な経費を削減します。（スタッフの表情一真剣な感じ）
- ③事業に直接差し支えない経費を削ります。いざとなれば、事務所は引き払っても大丈夫、僕の家でみんなまで仕事しましょう。（スタッフの表情一苦笑）※しかし、必死で在宅ワークできるネット環境が整備されたので、所長の自宅でみんなまで仕事をするアイディアは無くなった。
- ④不況が長引き、内部留保の底が見えたら、ワークシェアリングします。給与が下がり、生活が苦しい人は自宅を引き払い、僕の家で一緒に住みましょう。（スタッフ一それは絶対嫌だという感じ）
- ⑤誰かのお困りごとを助ける、これが仕事の本質です。それなら、コロナの前より、今の方がみなさんのお困りごとは多いはず。だから今は、お役立ちのチャンスです。社労士業務に拘るつもりはありません。（スタッフの表情一納得）
- ⑥止まない雨はない、去らない嵐はない。嵐が過ぎ去ったあと、同じメンバーが余力を残し、同じようにここにいたら、僕たちの快進撃がそこから始まります。（スタッフ一（苦笑））

兎にも角にも、所長の家に一緒に住むというのを所長は望んでいるが、皆、それだけは絶対に避けたいのだろうか？お客さまへのホスピタリティなのか？今、弊所スタッフはものすごい勢いで頑張っている。トップの出来が悪いと部下が育つともいうが、本当に頼もしい。困難な出来事があると、一体感、道徳心を発揮するのは、日本人が世界に誇れる長所だ。お困りごとがあれば、何ができるかわかりませんが、弊所までお声かけください。

思い込み

Kawamura



わが子への思い込みがたくさんあるなと気づかされます。

代表的なものは【好き嫌い】【できる、できない】です。

こちらの勝手な思い込みで、自分の小さいときに嫌いだった食べ物を食べさせなかったり、まだ一人でするには早いから、と手伝ってしまいます。

私が思い込むことで、本当に嫌いになったり、できなくなるなと思います。

公園に行ったときにわが子と同じような年頃の子が、

親の手伝いなしに階段を上っているのを見て気づかされました。

彼の可能性は無限大なのに、有限にしているのは私でした。

いい思い込みをして子育てしようと思いました。



コロナウィルスの影響で、なかなか外出しにくくなりました。
用事があるとき以外、ふらふら外出するのを控えておりますが、お酒の量が減りません（笑）
週末は飲み会です^^
外出しているわけではありません。【オンライン飲み会】なのです。
お酒とお惣菜を準備して、時間になったらスイッチオン！
なんと、家に居ながらにして友人とお酒が楽しめるという時代^^

きっかけはさかのぼること10年前。
新卒で単身、100元（1500円くらい）を握りしめて中国大陸へ乗り込んだ20代前半。
言葉もできず友達もない寂しさ…そんな寂しさを紛らわすために始めたのが「スカイプ飲み」。
友人たちと顔を見て話ができることが、翌週の頑張りにつながりました。

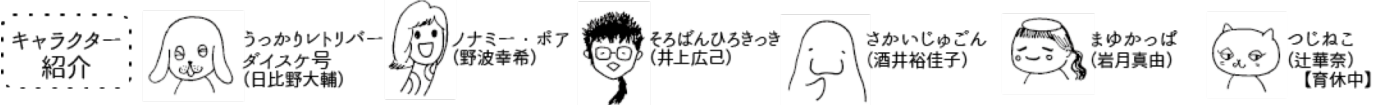
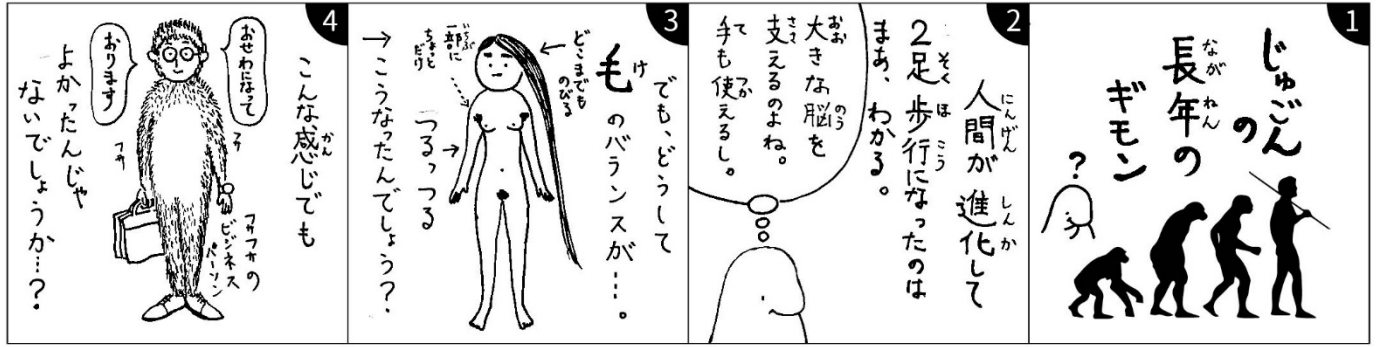
昔の教え子と日本で飲んだ時も、「今から中国のあの子につなごうか」といってビデオチャットができる時代、会えないけれど会える時代になりました。

会いたいけれど会えない人と顔を見ながら話せるツール。
ちょっと照れるけれど、こんな時こそ顔を見ながら話したいなと思います。



dℓとmℓ...cmとm?分からん。
という声にお応えして“単位とそろばん”を企画しました。
単位はそろばんで考えるとシンプルで、頭の中が整理されて理解が進みやすいです。
現在通っている生徒だけでなく、
卒業した生徒達や他の教室に通っている生徒の友達、
そして、お母さん達とおばあちゃん達も教室に来てくれました。
親子そろばん教室という企画があったり、普段から教室をオープンにしているので、
気軽に教室に来てくれます。とても嬉しく思います。
“学習”が子供とお母さんの間に入り込み、
知らず知らずに隔ててしまうことがあります。残念です。
そうではなく、“学習”が、より強い親子の繋がりとなる役割を果たせれば美しいと感じます。

大きな流れの中で、オンラインそろばん教室を週6日で実施することにしました。
車で片道30分～1時間かけて通いに来てくれている生徒が半数以上で、
9割が異なる小中学校に通う、地域性がほとんどないそろばん教室で、
何か良いことが起こる予感がします。



編集部より～事務所近況報告～

お昼ご飯を自炊するフォージョウハーフでもロックダウンに備え、近所のスーパーに食料の備蓄にいった（3月31日）。

パスタやインスタントラーメンが売り切れ、えっ！？もうないの？とパニックになりそうになったが、我々が食しているおでんのネタはスーパーに山積みであり、弊所定番メニューのそうめんは、不動な感じで陳列されていた。いまだきの大阪人は、非常食といえばスパゲティなのか？！

思わず、つぶやいた「欧米かっ！！」

編集後記

緊急事態宣言が出るなか、息子の保育園生活がスタートしました。こんな時でも保育所が預かってくれることはすごいなと思います。コロナウイルスは子供に感染しても重症化しにくいなどとテレビなどで目にしますが、実際には重症化している子もいるので不安が尽きません。そんな思いでマスクをし、お迎えに行くと、保育園には桜やポピー、チューリップなど、たくさんのお花が満開になっていました。自然界には確実に春が訪れています。大変な時ですが、やまない雨はない、そんな気持ちになりました。

【発刊元】

work design office フォージョウハーフ
〒540-0026 大阪市中央区本町2丁目4-12-7F
TEL 06-6945-5550 FAX 06-6945-5551

E-mail:support@4jh.jp

発行人：日比野大輔
編集人：川村真由
イラスト：日比野純子・酒井裕佳子

